





代表取締役社長
甲斐敏彦

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申しあげます。いつも格別のご支援を賜り、まことにありがとうございます。ここに、日機装グループの平成22年3月期（第69期）上半期の事業概況をご報告いたします。

第69期上半期
決算のポイント

受注高、売上高、利益は、引き続き
世界同時不況の影響を受ける

工業部門は苦戦、医療部門は好調

業績

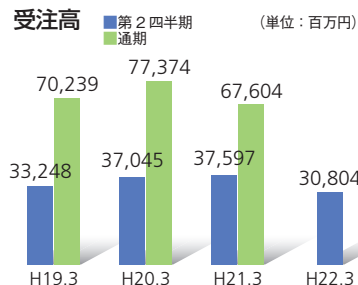
第69期上半期の業績は、受注高308億円、売上高335億円、営業利益18億円、経常利益22億円、四半期純利益9億円となり、前年同期に比べ、減収減益となりました。

これは、長引く世界的景気低迷に伴う受注・売上の減少と、円高による収益の圧迫が主な原因です。ただし、期初に開示いたしました業績予測に対しては、売上高はほぼ達成、利益では上回ることができました。

工業部門では、顧客業界の設備投資は総じて低調で、依然として厳しい状況が続いており、売上・利益ともに前年同期を大きく下回りました。しかしながら、一部の市場に明るい兆しが見えつつあります。

一方、医療部門では透析業務の効率化・省力化を実現する新機能が付加された人工透析装置の販売が好調です。透析関連消耗品についても、透析患者の増加により売上が伸び、売上・利益ともに前年同期を上回りました。

今後も引き続き、日機装グループは中期業務計画のもと、技術力のいっそうの向上、グローバル化への対応、マーケティング機能の強化、現場力の再生などの経営課題に取り組み、将来に向けて事業基盤の強化を着実に進めてまいります。



成長に向けての取り組み

ポンプ事業では、本年8月、往復動ポンプの世界トップメーカーであるドイツのLEWAグループを買収しました。これにより、当社のポンプ事業の売上規模はほぼ2倍となりました。今後は両社の技術力と市場競争力のシナジー効果を最大限に発揮させ、グローバル・ポンプ・サプライヤーとしてNo.1を目指します。(P5 トピックス「ドイツLEWAグループを買収」)

ISOL事業では、原油価格高騰への対応、エネルギーの安定供給の確保および地球温暖化防止の観点から世界的に進む原子力発電所新設の動きを、発電所向け水質調整システムの受注へとつなげるため、米国を中心とした海外事業を積極的に展開していきます。

航空宇宙事業では、本年6月から、ボーイング777の逆噴射装置用部品である「ブロッカードア」の量産を開始しました。また、ベトナム・ハノイ市郊外に「Nikkiso Vietnam, Inc.」の新工場がほぼ完成し、間もなく航空機部品の生産が始まります。

メディカル事業では、透析治療でスタッフに大きな負担となっていた脱血作業・返血作業を全面的にアシストする新機能「D-FAS」を本年6月にリリースし、透析装置の上半期の売上に大きく貢献しました。今後は、この新機能を搭載できる機種範囲を広げ、いっそうの業績拡大をめざします。また、透析以

外の医療製品として、潰瘍性大腸炎などの免疫疾患を治療するアフレスス（血液浄化）療法製品の市場へ新たに参入します。製品の開発を終え、間もなく、ドイツで治験を開始します。(P5 トピックス「アフレスス（血液浄化）療法製品の治験を開始」)

これからの日機装グループ

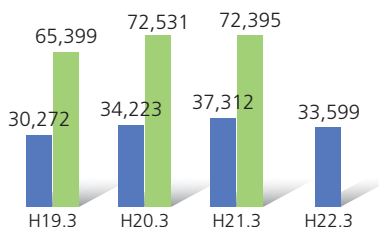
外部環境は依然として厳しい状況にありますが、日機装グループは将来の事業拡大・強化に向けてさまざまな施策に取り組んでいます。それぞれの事業分野でこれまで培ってきた技術と強みを生かし、さらなる飛躍をめざします。

またLEWAグループの買収により、当社の業容は一挙に拡大しました。LEWAグループはポンプ単体で世界最高水準の技術を持つだけでなく、周辺機器を含めたシステム提供でお客様のニーズに応えるソリューション型ビジネスに強みを持っています。LEWAグループの買収は規模の量的な拡大だけでなく、お客様の信頼に応えるソリューション企業として成長するための布石でもあります。「技術の日機装」として、これまで以上に柔軟で幅広い技術の開発に努めてまいります。

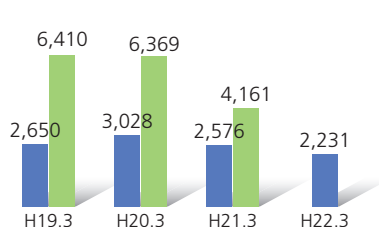
株主の皆様がいっそうのご支援をお願い申し上げます。

平成21年11月

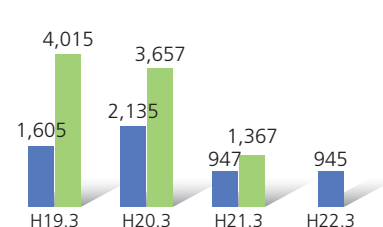
売上高 (単位：百万円)



経常利益 (単位：百万円)



四半期(当期)純利益 (単位：百万円)



日機装グループの成長を支える4つの事業本部を紹介します。前号の「ポンプ事業本部」と「航空宇宙事業本部」に続いて、今回は「ISOL事業本部」と「メディカル事業本部」の両本部長に、今後の抱負を聞きました。

INTERVIEW 1 ISOL事業本部

厳しい事業環境の中で、
現在どのような取り組みを
進めていますか？

Q

景気後退による影響で、特に温水ラミネータ等の電子部品製造装置の落ち込みが大きく、また、広く産業界全般に用いられる粒度測定装置もダメージを受けました。一方、発電所向けの水質調整装置は、新興国の旺盛な電力需要を受けて引合いは好調ですが、これらは長期にわたるプロジェクトが多く、売上・利益に貢献する時期はまだ先になりそうです。

こうした厳しさを乗り越えていくために、お客様のビジネスの周辺領域にも、システム・ソリューションを積極的にご提供し、同時に製品のラインアップを増やす取り組みを進めています。

成長産業にフィットした製品を、 グローバルに展開します。

取締役 ISOL事業本部長
野上 宏



次の成長ステップに向けて、
重点テーマは何ですか？

Q

今後、さらなる成長力を確保していくために、2つの戦略を考えています。1つは、景気の影響を受けにくい医薬品・化粧品・食品・バイオ関連等の業種をターゲットとして、製品展開を行っていくこと。もう1つは、早急にグローバル化を推し進め、世界で通じるものづくりを確立していくことです。そのためには、QCDS（品質・コスト・納期・サービス）の拡充と営業ネットワークのさらなる強化、そして技術力の向上がカギとなります。この8月に当社は、ドイツの工業用ポンプ

專業メーカー、LEWAグループを買収しました。同社が持つ優れたシステム技術と欧州を中心としたグローバル販売網を積極的に活用して、今後の成長の原動力にしたいと考えています。

ISOL事業本部に期待してほしい・
注目してほしいことは？

Q

ISOL事業本部が扱っている製品は、いずれもこれからの成長産業にフィットしたものだと考えています。たとえば、水質調整装置は急速にグローバル化が進む電力業界で、粒度測定装置・高圧装置はナノテクノロジー、エレクトロテクノロジーといったさまざまな新規分野の研究開発・製造工程で、さらに大きく飛躍できる可能性を持っています。どうぞご期待ください。



原子力発電所向けサンプリングラック
(試料採取装置)



マイクロラック（粒度分布測定装置）



ドイツの製造販売拠点Nikkiso Europe GmbH

人工透析装置を中心に好調な業績が続いていますが、要因は何ですか？

Q

透析装置は高品質な製品群と全国に張り巡らされたメンテナンス・ネットワークに支えられ、国内では圧倒的なシェアを維持しています。この顧客基盤に対し効率化・省力化をアピールして、シェアの確保と新規顧客の獲得に成功したことが1つめの要因です。その原動力となった製品が、透析装置の効率化・省力化をもたらす「D-FAS」であり、透析装置と電子カルテの連携を可能とする「フューチャーネット」等の新製品です。

もう1つの要因は海外です。今後の成長テーマでもありますが、海外における新規マーケット、特に中国を中心としたアジアマーケットの開拓が効果を上げ始めたことが大きく寄与しています。

メディカル事業本部が目指す今後の成長テーマは？

Q

海外でのシェア拡大が最大の目標となります。ヨーロッパについては製造拠点も置き、すでに長い歴史があります。中南米のマーケットについてはニプロ社や米国バクスター社といった有力企業の販売ネットワークを通じて広く販売しています。

他方、アジアは、各国の経済成長に伴い人工透析治療が急速に普及していくと考えられる有望なマーケットですが、そのアジアで当社は、日本に加えベトナム・タイに製造拠点を設け、中国・台湾・韓国・タイに販売子会社を置き、有力な販売代理店網も駆使しながら、最優先地域としてシェア拡大に取り組んでいます。

統計によれば、アジアでは人工透析治療の恩恵を享受できている人の数はまだまだ少ないのが現状です。今後、生活水準の

上昇、政府による支援の動向によっては爆発的に市場が拡大する可能性もあります。

トップシェアを誇る国内基盤に加えて、拡大する海外マーケットでさらなるシェアを獲得していくことが、当社のメディカル事業を一段と成長させることにつながると考えています。



新機能「D-FAS」を搭載した透析装置DCS-27

メディカル事業本部に期待してほしい・注目してほしいことは？

Q

人工透析装置に続く次の柱として、潰瘍性大腸炎などの免疫疾患患者の治療に使用するアフエレスス（血液浄化）療法製品の開発を終え、この秋ドイツで臨床治験を開始します。また、世界中で当社しか取り扱っていない「人工臓腑」にも、今後注力していきます。長年培ってきた当社の技術をさらに発展させ、安全性と経済性の高い新製品を医療の現場に提供し続け、人々の健康に貢献していきます。ぜひご注目ください。

安全性と経済性に優れた新製品を
医療現場に提供し続け、
人々の健康に貢献します。

執行役員 メディカル事業本部長
圓尾 樹生

ドイツLEWAグループを買収

本年8月、ポンプ事業の抜本的な強化策の一環として、ドイツのLEWAグループを買収しました。

LEWA GmbHを中核とするLEWAグループは、往復動ポンプの分野で世界トップのシェアとブランド力を持つ専門メーカーで、とくにオイル・ガス業界と欧州市場において強力な地歩を築いてきました。また、ポンプ単体の技術だけでなく、周辺機器を含めたシステム提供により業界毎、プラント毎のソリューション型ビジネスに強みを持つことも特長です。

一方、当社も、遠心ポンプの分野では、世界トップクラスの技術を持ち、日本・アジアを中心とする主要顧客層との深い関係を築いています。

このような両社の技術力と市場競



当社代表取締役社長
甲斐敏彦 (左)

LEWA GmbH CEO
Bernd M. Stütz 氏 (右)

争力が生み出すシナジー効果により、当社は、ポンプ事業の分野において、将来に向けてきわめて大きな成長可能性を獲得できたと考えています。



LEWA GmbH 本社全景

アフエシス（血液浄化）療法製品の治験を開始

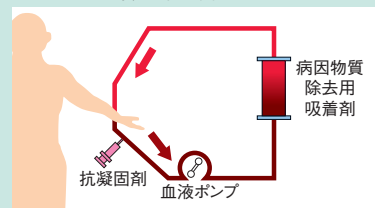
人工透析機器の開発で培った技術を用いて、潰瘍性大腸炎の免疫疾患の治療に使用されるアフエシス（血液浄化）療法製品の開発を終え、この秋、ドイツにおいて治験を開始します。

アフエシス療法は、従来の薬剤や外科的な治療法を補完または代替

するもので、血液を血液チューブにより一旦体外へ導き出し、特殊な膜や吸着器により病因物質を濾過や吸着で除去し、浄化された血液を再び体内に戻す治療法です。

このたびの治験は、潰瘍性大腸炎を対象としたものですが、将来はリウマチや多発性硬化症などの免疫疾

アフエシス療法の概念図



患をも対象とした安全で効果的な治療装置と病因物質除去用吸着材を開発し、世界中に普及させていきたいと考えています。

連結財務諸表

四半期連結貸借対照表

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

	当第2四半期 連結会計期間末 平成21年9月30日現在	前連結 会計年度末 平成21年3月31日現在
資産の部		
流動資産	54,336	52,689
固定資産	61,320	30,997
有形固定資産	20,893	19,035
無形固定資産	28,497	1,727
投資その他の資産	11,929	10,234
資産合計	115,657	83,687
負債の部		
流動負債	37,974	24,657
固定負債	38,531	22,308
負債合計	76,505	46,965
純資産の部		
株主資本	38,123	37,557
資本金	6,094	6,094
資本剰余金	10,265	10,265
利益剰余金	30,041	29,471
自己株式	△8,278	△8,274
評価・換算差額等	152	△1,314
少数株主持分	876	479
純資産合計	39,151	36,721
負債純資産合計	115,657	83,687

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

	当第2四半期 連結累計期間 平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	前第2四半期 連結累計期間 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,714	2,159
投資活動によるキャッシュ・フロー	△24,124	△3,162
財務活動によるキャッシュ・フロー	17,836	122
現金及び現金同等物に係る換算差額	183	△267
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△390	△1,147
現金及び現金同等物の期首残高	9,830	10,565
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,452	9,417

四半期連結損益計算書

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

	当第2四半期 連結累計期間 平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	前第2四半期 連結累計期間 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで
売上高	33,599	37,312
売上原価	23,843	25,939
売上総利益	9,755	11,372
販売費及び一般管理費	7,865	8,698
営業利益	1,889	2,673
営業外収益	629	509
営業外費用	287	606
経常利益	2,231	2,576
特別利益	4	3
特別損失	930	877
税金等調整前四半期純利益	1,306	1,701
法人税等	290	734
少数株主利益	69	19
四半期純利益	945	947

決算のポイント

当上半期の業績は、世界同時不況の影響を引き続き受けることを期初に予測し開示しておりましたが、売上高はほぼ予測どおり、営業利益、経常利益は予測を上回りました。

一方、LEWAの買収関連費用を特別損失に計上したため、四半期純利益は予測を下回りました。

貸借対照表の無形固定資産や固定負債の大幅な増加、キャッシュ・フロー計算書の投資活動によるキャッシュ・フローの多額な資金支出や、財務活動によるキャッシュ・フローの多額な資金収入も、LEWAグループ買収に伴うものです。

*なお、LEWAグループの業績は当下半期から合算することになります。

①ポンプ事業本部

受注高 **6,079** 百万円 (43.0%減)
 売上高 **8,556** 百万円 (22.2%減)

国内の投資は依然として冷え込んでおり、メンテナンス費用を抑制する動きも顕著ですが、主要顧客である石油、石油化学、液化天然ガス業界の東南アジア市場に一部明るい兆しが見えつつあります。

また、本年8月に往復動ポンプの世界トップメーカーであるLEWAグループを買収しました。

事業内容

石油化学・液化ガスなどのエネルギー、上下水道、食品など、幅広い分野で使用される特殊ポンプの製造・販売・メンテナンスを行なっています。

無漏洩ポンプ、高精度定量注入ポンプ、高速遠心ポンプ、極低温用ポンプなどが主力製品です。



クライオジェニックポンプ
 (極低温液化ガスポンプ)

②ISOL事業本部

受注高 **3,461** 百万円 (32.6%減)
 売上高 **3,510** 百万円 (24.2%減)

電力各社の水質調整装置の新規投資は低調であり、また、電子部品製造装置の関連業界は、生産量に改善の兆しが見えてきたものの、依然として厳しい状況が続いています。粒度分布測定装置の事業環境も厳しい状況ですが、東南アジア向けの売上が伸びるなど一部に回復の兆しがあります。

事業内容

火力・原子力発電所向け水質調整システム、精密電子部品の生産に使用される高圧処理装置、粉粒体の計測に用いる粒度分析計などの製造・販売・メンテナンスを行なっています。



原子力発電所向けサンプリングラック
 (試料採取装置)

③航空宇宙事業本部

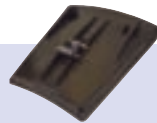
受注高 **1,711** 百万円 (28.6%減)
 売上高 **1,711** 百万円 (28.6%減)

航空機業界に波及した世界同時不況の影響により、顧客からの減産や納期先送りの要請が繰り返され、また円高が持続していることなどから、厳しい状況が続いています。

本年6月からボーイング777の逆噴射装置用部品である「ブロッカードア」の量産を開始しました。また、ベトナム・ハノイ市郊外に「Nikkiso Vietnam, Inc.」の新工場がほぼ完成し、間もなく航空機部品の生産が始まります。

事業内容

炭素繊維強化複合材成形部品の製造・販売・コンサルティングを行なっています。主要製品は、民間航空機用ジェットエンジンの逆噴射装置用部品(カスケードおよびブロッカードア)です。



ブロッカードア

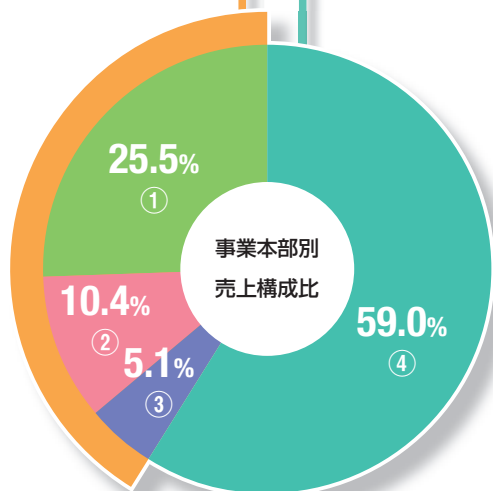


カスケード

工業部門 ()内は前年同期比

受注高 11,252 百万円 (38.2%減)

売上高 13,778 百万円 (23.6%減)



医療部門 ()内は前年同期比

④メディカル事業本部

受注高 19,552 百万円 (0.8%増)

売上高 19,820 百万円 (2.8%増)

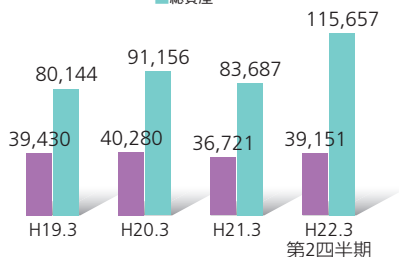
透析業務の効率化・省力化を実現する機能を付加した人工透析装置の販売が好調で、またPEPA膜ダイアライザー、血液回路および粉末型透析剤などの透析関連消耗品についても、透析患者の増加により売上が伸びました。

事業内容

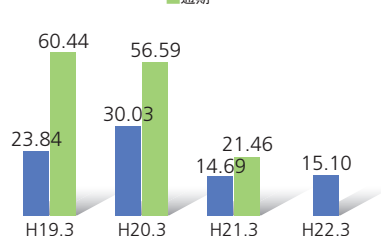
人工腎臓装置、中空糸型透析器、透析用血液回路セット、人工腎臓透析剤、血糖管理装置（人工腎臓）などの医療機器・医薬品の研究開発、製造・販売からメンテナンスまでを一貫して行なっています。



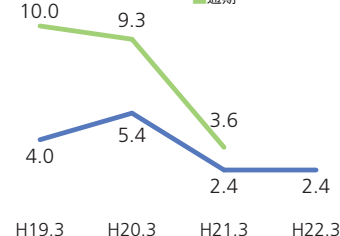
総資産・純資産 (単位: 百万円)



1株当たり純利益 (単位: 円)



株主資本純利益率 (ROE) (単位: %)



会社概要・株式の状況 (平成21年9月30日現在)

会社の概況

創業日 昭和28年12月26日
(登記上の設立日は昭和25年3月7日)

資本金 6,094,984,191円

従業員数 連結 4,631名 当社単独 1,392名

役員・執行役員

代表取締役社長	甲斐 敏彦	執行役員	本間 久
常務取締役	長尾 章弘	執行役員	田代 初男
取締役	木下 博	執行役員	長門 祥一
取締役	中村 洋	執行役員	圓尾 樹生
取締役	野上 宏	執行役員	伴 信彦
取締役	西脇 章	執行役員	素木 岫一
常勤監査役	山本 光祥	執行役員	清水 信行
常勤監査役	国政 慈志	執行役員	千葉 敏昭
監査役	中根堅次郎	執行役員	林 清秀
監査役	菊地裕太郎	執行役員	房前 芳一
		執行役員	宮田 博明
		執行役員	紅林 哲夫

会計監査人

有限責任監査法人トーマツ

株式の状況

発行可能株式総数 249,500,000株

発行済株式の総数 72,611,464株
(うち自己株式 9,991,848株)

株主数 8,439名

大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
株式会社みずほ銀行	3,102	4.27
株式会社みずほコーポレート銀行	2,577	3.54
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,258	3.10
三井住友海上火災保険株式会社	1,966	2.70
日機装持株会	1,932	2.66
日機装従業員持株会	1,903	2.62
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,822	2.51
日本生命保険相互会社	1,500	2.06
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (中央三井アセット信託銀行再信託分・CMTBエ イティンベストメンツ株式会社信託口)	1,404	1.93
株式会社りそな銀行	1,215	1.67

グループ会社一覧

ポンプ事業本部

- 製造・販売
日機装エイコー株式会社
サンダイン日機装株式会社
- メンテナンスサービス
日機装リューキテクノ株式会社
- 海外製造・販売
LEWA GmbH
Nikkiso Cryo, Inc.
上海日機装ノンシールポンプ有限公司
Nikkiso Pumps America, Inc.
Nikkiso Pumps Korea Ltd.
Nikkiso-KSB GmbH

ISOL事業本部

- メンテナンスサービス・工事
日機装テクニカ株式会社
- 海外製造・販売
台湾日機装股份有限公司 (工業部門)
Microtrac, Inc.
- 製造・販売
日機装サーモ株式会社

航空宇宙事業本部

Nikkiso Vietnam, Inc.

メディカル事業本部

- 販売・メンテナンスサービス
日機装東北医工株式会社
- メンテナンスサービス
日機装M.E.S.株式会社
- 海外製造・販売
M.E.Nikkiso Co., Ltd.
Nikkiso Vietnam MFG Co., Ltd.
- 海外販売・サービス
台湾日機装股份有限公司 (医療部門)
上海日機装貿易有限公司
Nikkiso Medical Korea Co., Ltd.
Nikkiso Medical (Thailand) Co., Ltd.

共通部門

- Nikkiso Europe GmbH
Nikkiso America, Inc.
日機装 (上海) 投資管理咨询有限公司
株式会社日機装技術研究所
創光科学株式会社

国内拠点・関係会社

● 営業拠点 ● 生産拠点 ● 関係会社



東村山製作所



静岡製作所



金沢製作所

海外拠点・関係会社

● 駐在員事務所 ● 関係会社



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
株主名簿管理人	(1) 事務取扱所 (お問い合わせおよび郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル) (2) 取次所 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店・全国各支店
単元株式数	1,000株
公告の方法	電子公告の方法により行ないます。 ただし、やむを得ない事由により電子公告を することができない場合は、日本経済新聞に 掲載します。 公告掲載の当社ホームページアドレス http://www.nikkiso.co.jp
上場証券取引所	東京証券取引所 (証券コード6376)

お知らせ

住所変更、単元未満株式の買取・買増等の 取り扱い先について

住所変更、単元未満株式の買取請求・買増請求につきましては、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で取り扱います。お取引をされている証券会社等にお問い合わせください。

なお、特別口座にて管理されている株式については、特別口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社での取り扱いとなります。お問い合わせ先は左記株主名簿管理人と同じです。

当社ウェブサイト等のIR情報をご覧ください。

ホームページサイト

<http://www.nikkiso.co.jp>



モバイルサイト

<http://m-ir.jp/c/6376>



日機装株式会社

〒150-8677 東京都渋谷区恵比寿3丁目43番2号
電話 03-3443-3711

